

20年度セ試「地理B」の問題訂正について

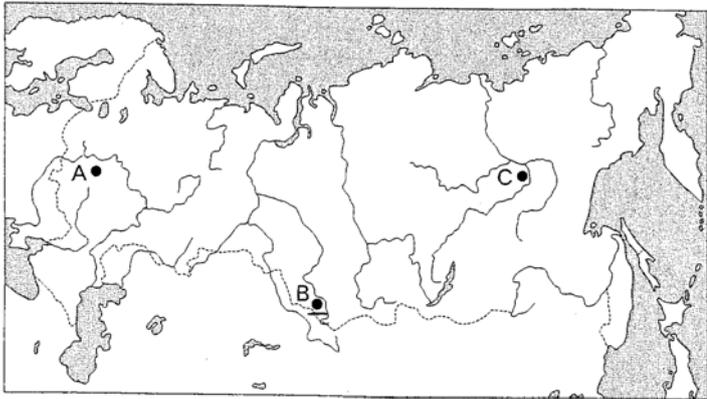
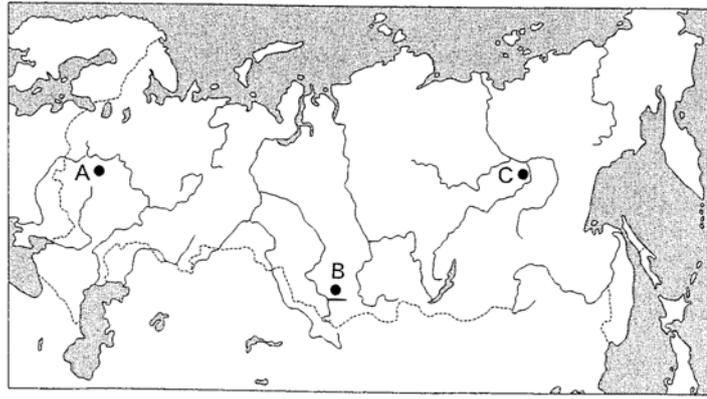
大学入試センター、特別な措置は行わず

旺文社 教育情報センター 20年7月7日

大学入試センターは7月4日、20年1月19日(土)に行われた20年度センター試験(本試)の「地理B」で、試験問題に一部校正ミスがあったと発表した。

ミスがあったのは、「地理B」の第2問、問4、図4の「B」点の位置(下図参照)。

「B」はロシアのノボシビルスクの位置で、本来はオビ川の東側なのに西側としていた。

訂正箇所	145ページ 第2問 問4 図4 Bの点の位置
誤	
正	

★ 大学入試センターの対応：出題内容は、地図上の点で示された工業都市の特徴を選択肢から選ばせる設問であり、都市のおおよその位置を判断することは可能であるため、採点上の特別な措置は行わない。

○ 20年度センター試験 試験問題評価委員会報告書：6月30日に公表された「センター試験問題評価委員会報告書」には、関係団体からの次のような意見・評価や大学入試センターの問題作成部会の見解が寄せられていたが、出題ミスについては触れられていなかった。

① 高等学校教科担当教員の意見・評価

- ・第2問-問4 ロシアにおける三つの工業都市に関する組合せ問題である。ロシアの工業都市が教科書で取り扱われることは少ない。特に皮革工業に関しては、ほとんど取り扱われることはなく、戸惑ったであろう。

② 日本地理教育学会の意見・評価

- ・第2問-問4 久々のオーソドックスな地理の問題と言えるが、現状の地誌学習ではここまで細かい知識を学習するのは難しいのではないか。特にAとCの都市は知らなくても、汎用性のある工業立地の概念と、ロシアの国土を大観的に理解していれば解けるが、Bの都市まで詳しく扱わないことが多い。

③ 問題作成部会の見解：

- ・第2問 「資源と産業」に関する分野からの出題として、資源の偏在とその利用及び工業についての基本的な内容の理解度を、図やグラフの読みを通じて確認することを意図して出題した。
全体としては、まず、鉱産資源やエネルギー資源について生産地と消費地に偏りがあることを、鉱産資源の生産と消費、1次エネルギー消費の内訳、エネルギーの輸入依存率から問い、次に、資源と工業のかかわりについて、ロシアの工業都市、中央・南アメリカの資源と工業、工業の立地から問う構成であった。大問全体の得点率は約7割であった。
- ・問4 ロシアの主要な工業都市に関連して、工業を支える資源や工業地域の特徴及び位置についての理解を問うた。